

桑折町蚕糸記念公園完成

歴史伝える

憩いの場

町中心部の福島蚕糸工場跡地に整備を進めていた「桑折町蚕糸記念公園」が完成し、4月3日、現地で行われました。

同跡地は、昭和から平成にかけて、町の発展に寄与した蚕糸業の工場が、また、東日本大震災後には応急仮設住宅が建てられていました。仮設住宅の撤去により、旧庭園を整備。この場所から未来へ、近代前半の日本経済をも支えた町の輝かしい歴史を伝えます。

Interview

思い出が詰まった工場庭園

元福島蚕糸農連協に勤めていたころの思い出がたくさん詰まった工場庭園が、立派にリニューアルされ、感慨無量です。昭和天皇行幸の際の記念樹「多行松」や「心字の池」、「ヒマラヤ杉」、「枝垂れた白梅」、群馬県の富岡製糸工場からお祝いにいただいた「銘石」などが残され、過去を偲ばせます。

当時、池の前で花見をしたことや、やぐらを囲んで子どもたちと盆踊りをしたことなど、今でも鮮明に覚えています。取り壊し後に寂しく思っ

ていましたが、当時を物語るいろいろな木々が残され、心が救われました。



元福島蚕糸販売農連協総務部長
二瓶 亨さん

- 1_ 公園の入り口では、当時の表札が訪れる人々を出迎えます
- 2_ あずまやで半田山を眺めながらゆったりとひと休み



POINT

- ① 蚕糸跡地の名残りを留める旧庭園を再現
- ② 昭和天皇行幸の記念樹「多行松」の保存
- ③ 世代を超える新しい交流の場が誕生

思い出の木々
旧庭園で大きな存在感を誇ったヒマラヤ杉なども残っています

行幸記念樹「多行松」
昭和22年に昭和天皇が工場視察した際の記念樹

歴史を語る看板
蚕都「桑折町」の輝かしい栄光を未来へ伝えます

侘び寂びを感じる「心字の池」

漢字「心」の草書体をかたどって造られた池。小石で水面を表現し、心を落ち着かせる赴きある空間

憩いの場「あずまや」
町のシンボル半田山が望める、絶景の語らいの場